

福祉生活病院常任委員会資料

(令和5年2月14日)

【 件 名 】

- 新型コロナウイルス感染症への対応について
(新型コロナウイルス感染症対策推進課) . . . 2

- 新型コロナウイルスワクチン接種に向けた取組状況について
(新型コロナウイルスワクチン接種推進チーム) . . . 4

新型コロナウイルス感染症対策本部事務局

新型コロナウイルス感染症への対応について

令和5年2月14日
新型コロナウイルス感染症対策推進課

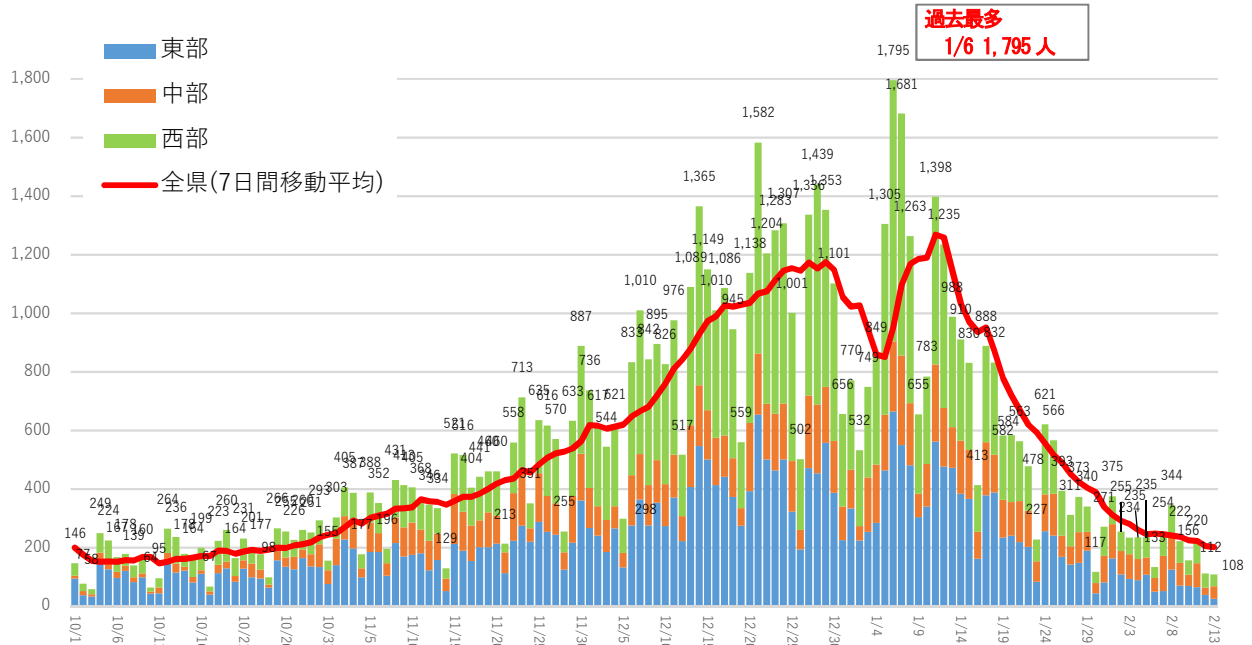
1 県内における感染者の発生状況

(1) 第8波の感染者数（令和4年10月1日～令和5年2月13日、発表日ベース）

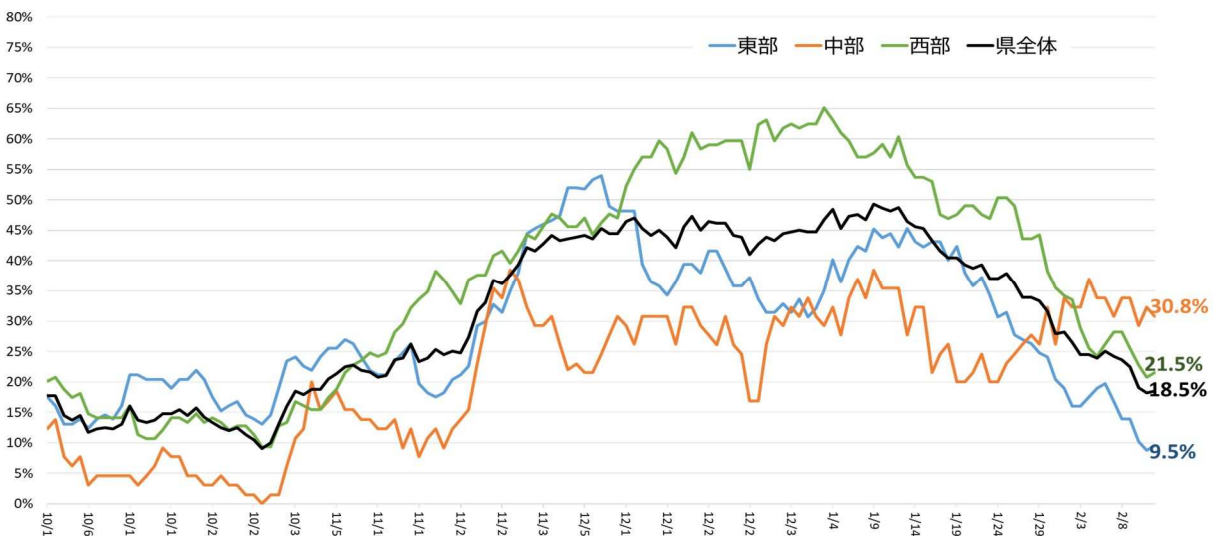
74,595名（鳥取市保健所 30,547名・倉吉保健所 13,961名・米子保健所 30,087名）

（参考）累計感染者数 137,509名（鳥取市保健所 56,043名・倉吉保健所 23,048名・米子保健所 58,418名）

<新規感染者数の推移>



<病床使用率の推移>



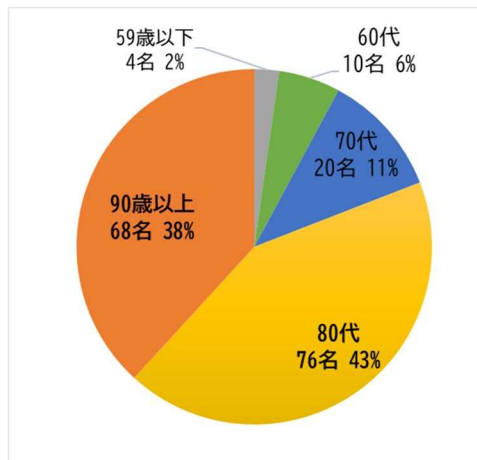
(2) 第8波のクラスター発生状況（令和5年2月13日現在、発表日ベース）

区分	東部	中部	西部	分類計	(参考)累計発生件数
学校等	31	22	28	81(19%)	175(20%)
保育所等	31	28	39	98(23%)	189(22%)
高齢者施設等	60	34	74	168(39%)	295(34%)
事業所	18	9	14	41(10%)	99(12%)
医療機関	15	7	11	33(8%)	55(6%)
飲食店	0	0	0	0(0%)	20(2%)
その他	1	1	2	4(1%)	31(4%)
管内計	156(37%)	101(24%)	168(39%)	425(100%)	864(100%)

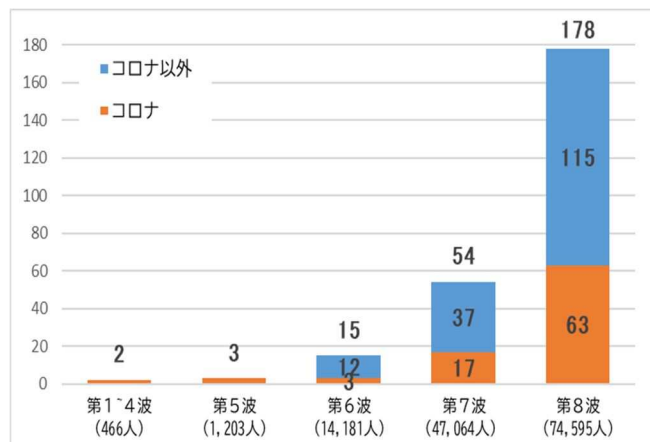
(3) 第8波の死亡者数（令和5年2月13日現在、発表日ベース）※括弧内は累計死亡者数

死亡	うち新型コロナウイルス感染症を死因とする死亡
178 (252)	63 (88)

＜第8波死亡者の年代別＞



＜流行期別死亡者数＞



※括弧内は新規陽性者数

2 各種要請・警報の発令状況（令和5年2月13日現在）

(1) 特措法第24条第9項に基づく要請

区 域 鳥取県全域

期 間 令和5年2月9日から令和5年3月31日まで

要請内容

県内の感染や医療の状況は、改善傾向にありますが、依然として、新規陽性者数が高いレベルで推移していますので、引き続き、基本的な感染対策の徹底をお願いします。

- 家庭内や友人など近い人との交流でも感染対策の徹底を
 - ・距離が確保できない場合や会話を行う場合など場面に応じたマスクの着用
 - ・感染リスクを下げるため、密を避けて人と人の距離の確保（2m程度）
 - ・寒くてもエアロゾルを意識した換気・手洗い・手指消毒の徹底
 - ・感染、重症化、後遺症予防のため、できるだけ速やかにワクチン接種
- お出かけの際は、感染対策のレベルアップを
 - ・県外往来や大きなイベント参加の際は積極的に無料検査を受検
※無料検査期間は3月31日（金）まで延長
 - ・送別会などの会食の際は、マスク会食を徹底
 - ・人ごみなど密な場所への立ち入り時には特に注意
 - ・症状がある場合は、出勤や登校を控えるとともに、必要に応じ医療機関を受診

(2) 鳥取県版新型コロナ警報（令和5年2月13日現在）

地域	発令状況	備考
東部	注意報	2月9日～
中部	警報	1月12日～
西部	注意報	2月9日～

(3) 新規陽性者の動向を踏まえた注意喚起情報（令和5年2月13日現在）

地域	発出状況	備考
東部	感染拡大警戒情報	1月23日～
中部	感染拡大警戒情報	1月23日～
西部	感染拡大警戒情報	1月23日～

(4) 本県のレベル移行判断目安の指標状況（令和5年2月13日現在）

○本県のレベル：レベル2

○判断指標（算定基準日：令和5年2月12日、直近1週間：令和5年2月6日～12日）

指標	数値	算式
新規陽性者数(対人口10万人/週)	255.9人	1,416人/55.3万人×10万人
確保病床使用率(※)	18.5%	65床/351床
重症者用確保病床使用率	2.1%	1床/47床(うち重症者0名)

※他県で確認された陽性者が使用する数を含む場合があります。

※重症者以外が使用している数を含む場合があります。

新型コロナウイルスワクチン接種に向けた取組状況について

令和5年2月14日
新型コロナウイルスワクチン接種推進チーム

1 本県の接種状況

(1) 総接種回数の内訳及び接種率 (2月9日現在)
(全国)

全年代	1回接種者	2回接種者	3回接種者	4回接種者
接種回数	102,945,578	101,842,286	85,889,814	57,513,131
人口当たり接種率	81.76%	80.88%	68.21%	45.67%

(鳥取県)

全年代	1回接種者	2回接種者	3回接種者	4回接種者
接種回数	448,255	444,076	373,584	259,364
人口当たり接種率	81.26%	80.51%	67.73%	47.02%

(2) オミクロン株対応ワクチンの接種状況 (2月9日現在)

全国	
接種回数	53,861,329
人口当たり接種率	42.77%
鳥取県	
接種回数	243,626
人口当たり接種率	44.17%

オミクロン株対応ワクチン接種状況 (都道府県別、年齢階級別)

(2月6日公表時点)

	12歳～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65～69歳	70歳代	80歳代	90歳代	100歳以上
全国	23.9%	21.0%	24.7%	33.3%	49.6%	60.2%	65.2%	74.6%	74.9%	70.3%	63.2%
鳥取県	25.3%	22.8%	25.1%	33.3%	49.1%	59.1%	65.4%	75.7%	71.4%	68.7%	65.4%

※首相官邸ホームページ発表数値 (毎週一回更新)

(3) 小児 (5～11歳) の接種状況 (2月9日現在)

全国	1回目	2回目	3回目
接種回数	1,761,251	1,686,073	630,530
人口当たり接種率	24.07%	23.04%	8.62%
鳥取県	1回目	2回目	3回目
接種回数	9,092	8,799	3,304
人口当たり接種率	27.44%	26.55%	9.97%

(4) 乳幼児 (生後6か月～4歳) の接種状況 (2月9日現在)

全国	1回目	2回目	3回目
接種回数	152,061	123,741	11,473
人口当たり接種率	3.79%	3.09%	0.29%
鳥取県	1回目	2回目	3回目
接種回数	616	544	88
人口当たり接種率	3.39%	2.99%	0.48%

2 オミクロン株対応ワクチン（2価ワクチン）について

県内6か所の県営会場を継続して設営し、市町村における接種を支援したほか、受験・就職等で県外往来が想定される県立高校へのワクチンバス派遣を強化。

3 小児・乳幼児接種について

全県的な小児接種体制を拡充するため、中部エリアで市町・小児科医会と協働し、2月中に小児の集団接種会場を特別開設。1市4町の小児が対象で、2町で実施する。また、小児・乳幼児の集まりやすいショッピングモールやレジャー施設等にPRキャラバンを派遣し、接種の呼びかけを実施しているほか、乳幼児については、保護者を対象にした出前説明会を実施し、乳幼児期のワクチン接種に対する理解を深めてもらうための取組を実施中。

4 予防接種法に基づく医療機関からの副反応疑い報告状況について（2月13日時点）

前回報告時（1月20日）から、ファイザー（オミクロン株対応）で2件の副反応疑い報告があった。

ワクチンの種類	推定接種回数	副反応疑い件数	うちアフィリキシー報告数	
			うち死亡報告数	うちアフィリキシー報告数
ファイザー社 （従来株）	1,097,060	72 0.0066%	11 0.0010%	17 0.0015%
ファイザー社 （BA.1対応）	29,250	0 0.0000%	0 0.0000%	0 0.0000%
ファイザー社 （BA.4-5）	193,768	2 0.0010%	0 0.0000%	0 0.0000%
小児ファイザー	21,195	0 0.0000%	0 0.0000%	0 0.0000%
乳幼児ファイザー	1,248	0 0.0000%	0 0.0000%	0 0.0000%
モデルナ社 （従来株）	299,668	6 0.0020%	0 0.0000%	0 0.0000%
モデルナ社 （BA.1）	15,789	0 0.0000%	0 0.0000%	0 0.0000%
モデルナ社 （BA.4-5）	4,819	0 0.0000%	0 0.0000%	0 0.0000%
アストラゼネカ社	64	0 0.0000%	0 0.0000%	0 0.0000%
武田社 （ノババックス）	605	0 0.0000%	0 0.0000%	0 0.0000%

（参考）国の動き

2月8日、厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会が開かれ、2023年度以降の新型コロナウイルスワクチン接種方針案について了解された。

<方針案の概要>

- ・重症者を減らすことを第一の目的とし、重症化リスクが高い者を対象とする
- ・小児及び乳幼児は、接種できる期間が短かったことから、当面、現在の接種を行うべき
- ・秋冬に次の接種を行うべき
- ・オミクロン株対応2価ワクチンに早急に切り替えていくことが望ましい

今後、厚生科学審議会 予防接種・ワクチン分科会で議論され、3月中に結論を得る見込み。
本県は国の方針に従い、混乱のないよう、引き続き市町村及び医師会等関係機関との連携を取りながら、接種体制を整えていく。